

## 国際自律神経学会 2017 (ISAN2017) 印象記

1995 年設立された国際自律神経学会 (ISAN International Society For Autonomic Neuroscience) は 2 年に 1 度行われ、基礎と臨床の自律神経学に関する学会です。ISAN のシンポジウムは合計 34 回、そのうち今回を含めて日本開催は 4 回目となり



ます。今回 2017 年 8 月 30 日～9 月 2 日まで日本の名古屋で開催されました。大会長の国際福祉大学の黒澤恵美子会長のもと、「Let's Enjoy the World of the Autonomic Nervous System in the 21st Century from the East to the West」をテーマに開催されました。アドバイザーとして自律神経学会理事長である黒岩義之先生 (現 帝京大学神経内科教授、元横浜市立大学神経内科教授) のご指導があり、

細かな配慮のある学会でした。全イタリアでの ISAN にひき続いて Lewy 小体認知症や Parkinson 病に関する神経内科分野の自律神経発表を多く認めました。また大会長が体性感覚刺激による脳内伝達物質変化を、薬理学を用いて測定を行う研究者です。そのため薬理的な研究報告も例年になく盛況でした。ISAN プログラム委員長が千葉大学神経内科の朝比奈正人教授でした。朝比奈先生は SMON や自律神経を介する血圧調整の第一人者です。自律神経を介する血管や血圧調整の教育講演も勉強になりました。

自律神経研究者はそれぞれが得意とする自律神経測定方法を持ち研究を重ねています。そのため国際学会では自分と同じ手法を用いた自律神経研究者の情報交換の良い機会でもあります。たとえば 4 年前のドイツ Baden で開催された ISAN では HUT (Head Up Test) の実践があり、HUT を使用する研究者が大いに盛り上がったそうです。

私事ながら今回 ISAN は 3 回目の参加になります。(1 回目は SAH のスパズム、2 回目は脳卒中における障害部位、今回はリンパ浮腫に関する自律神経報告でした) 次回は 2 年後の USA California です。自分が飛行機に耐えられるようであればぜひ参加したいです。

今回 3 日間診療をお休みさせていただいた上、参加費用も出させていただきありがとうございました。中村教授はじめ諸先生方に感謝申し上げます。

